

SCOUTING 茨城

ボーイスカウト茨城県連盟は、社会の変化に即応して、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題をより良く解決する資質や能力を高める活動を行っています。また、その中で、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を養い、そして、たくましく生きていくための健康や体力を獲得することを重点的に取り組んでいます。

Vol.
52
2021
#1



人のお世話にならぬよう
人のお世話をすよう
そしてむくいを求めぬよう (自治三訣)

活動的で自立した青少年を育てる ★ ボーイスカウト!

令和三年

県連盟創立 70周年の 年を 迎えて



連盟長 関 正樹

新年あけましておめでとうございます。

日本ボーイスカウト茨城県連盟が70周年を迎える2021年新春を皆様とお祝いできることは、誠に光栄であり、意義深いことであります。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大に翻弄された1年でした。3月の一斉休校、4月の緊急事態宣言、12月の感染拡大と、その都度慎重な対応が求められる事態でした。しかし、そのような状況にあっても、ボーイスカウト運動を絶やさないために、多くのスカウト・保護者・指導者の皆様、関係諸団体の皆様にご尽力いただいたことに、深く感謝いたします。

欧米ではワクチン接種が始まるなど、この状況の中、少し光明が見えてまいりました。いたずらにウイルスを恐れるのではなく、新しい生活様式を取り入れた、新たなスカウト活動を展開していくことが我々には求められています。ベーデン・パウエル卿が書かれた「Scouting for Boys」によって始まったこの運動は、時代のパイオニアとして二度の世界大戦やスペインかぜの大流行も乗り越え、世界的な青少年の教育運動へと発展してきました。きっと、現在のこの状況も乗り越えられるに違いありません。

今年には本県連盟にとって創立70周年という節目の年にあたります。県連では、2021年を70周年記念YEARとして「Catch The Scouting Sprit 三指がなく、ひとつの想い ～過去、今、そして未来へ～」というテーマの下にいろいろな特別プロジェクトが展開されます。その中で、皆さまと共にスカウティングの原点を再確認し、スカウト精神を獲得し、地域社会のために役立つスカウティングを展開することによって、スカウト人口の増加に転じる好機になることを願っております。スカウト運動の目指すところは、社会に貢献できる青少年の育成です。皆様一人一人が、自己の責任と自覚に目覚め、他人を思いやる心を育み、楽しい野外活動を仲間と展開し、いつでもどこでも他に奉仕する心と体を養うことで、それは達成されると思います。

スカウト・保護者・指導者の皆様、この2021年が日本ボーイスカウト茨城県連盟の新たな出発点となり、更なる発展を遂げることを信じています。県連盟は、記念すべき70周年を、皆様の思い出として残り、そして未来につながる年となるよう全力を挙げて取り組んでいきます。皆様、力を合わせて頑張りましょう。

スカウト運動の原点に 立ち返り、 ちかいとおきて の実践を



理事長 八木 雄二

初春の陽光を浴びながら、加盟員の皆さんとともに新年を迎えることができましたことを大変うれしく思います。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、8月に予定しました第20回茨城県キャンポリー大会が延期のやむなきとなると共に、コロナ禍による野外活動の制限により、野外を教場とした本来のスカウティングができにくい状況の中、各国・隊のスカウト・指導者および保護者の皆さんには献身的なご努力をいただき、スカウト活動を継続実施することができましたことに対し、関係各位の皆様へ深く感謝申し上げます。

一方、コロナ禍の中、感染拡大防止のための「ステイホーム」により、青少年の屋外での活動が制限され、心身の健全な発達が阻害されております。そのため、昨今、ボーイスカウトの目的である野外を教場とした体験活動によるより良き市民の育成という考え方の必要性が強く求められております。昨年、文部科学省から日本連盟に委託され、県連盟内で現在も実施されている「ワクワク自然体験あそび」についてはボーイスカウトの自然体験活動が十分に生かされ、多くの子供たちおよび保護者の皆さんが参加され、ボーイスカウト運動に対する関心も大変高まって

おります。本年も継続して事業が展開される見通しから、より多くの子供たちにボーイスカウトのプログラムを提供し、より理解を深めてもらうことが組織の維持・強化につながるものと考えます。

このような状況の中、本年は県連盟創立70周年の記念すべき年を迎えます。

県連盟ではこの創立70周年を見据え、昨年、70周年記念事業やキャンポリー大会の実行委員会を立ち上げると共に県連盟の組織強化のための専門委員会を設置いたしました。創立70周年という節目の年を加盟員全体で意義ある年とすることはもちろんのこと、加盟登録人員の増加を図るための施策を専門委員会の中で大いに議論し、検討し、実践に移すことが目的であります。そしてそのことにより、将来にわたって茨城県連盟が維持拡大するためのターニングポイントの年としたいものと考えます。このためには、加盟員1人ひとりがベクトルを合わせると共に、各国・隊の皆さんには、スカウト運動の原点に立ち返り「ちかい」と「おきて」の実践と姿の見えるスカウティングの実施をお願いいたします。

県連盟にとって、まだまだ厳しい環境は続くものと思いますが、加盟員の皆さんの弥栄を祈念いたしまして年頭の所感といたします。

本来のスカウト活動へ

COVID-19の収束までは、まだまだ時間がかかりそうです。その間ずっとそれに寄り添って生活することの覚悟を決める時期がきたようです。「with コロナの新しい生活様式」をスカウト活動に導入することは、これまでの「ボーイスカウトのやり方」「ボーイスカウトの伝統」としてきたものについて、頭を切り替え、発想の転換をして、新たな「やり方」「伝統」を作り上げていくということです。ボーイスカウトは「運動」ですから、時代と共に変わっていきます。まさに「今」が、その大きな転換期となりました。

そもそも「スカウト」という言葉には、自ら道を切り拓いていくパイオニアという意味があります。その原動力は自発活動です。自発活動とは、スカウト自身の意識と気づきによって、意志を明確にし、自ら活動目標を設けて、それに向けて準備し段取りし、実行するのです。そうしてものごとを成し遂げていきます。これが自発活動です。この自発活動によってスカウトに有能感が育ち「自信」につながってきます。また、自発活動ですから、予め作られた「枠」はありません。ですから「型にはまった」といわれる日本のスカウティングを打破することにも繋がります。

このボーイスカウトの教育には、明確な目的や基本方針があります。しかし、学校でいうところのカリキュラムはありません。一見「進歩課程」がカリキュラムなのではないか・・・と思われるでしょうが、ボーイスカウトの進歩制度は、自発活動の幅を広げ、その質を高めるためのものであって、進歩課目を履修することがスカウト活動ではありません。だからこそ、班(BS)→パディ(VS)→個人(RS)というステップが必要であり、BSの班は自発活動のモチベーションを高めるために対班競点(班同士の競い合い)が必要になるのです。

そしてとびっきりの自発活動をするために、富士スカウト(日本のスカウトの最高位)を目指すのです。富士章取得は、富士スカウトのスタートラインです。そこから何をどうやるかで真価が問われ、やり遂げた結果、真の頂上に立った富士スカウトと認められるわけです。

さて、現在、コロナ下におけるスカウト活動は、新しいフェーズに入りました。それは、「コロナ対策をしながら、スカウティングの本質を忘れずに活動にしていこう!」です。「活動を実施する」ために何をどのように準備し、活動に繋げていけばいいのかを、日連や県連の指示を守る・従うだけではなく、自らの意志で調べ・決断して、実行まで持って行き、反省評価を加えて、更なるより安全で楽しい活動を目指していくということです。それをスカウト・指導者・隊・団がそれぞれ、自らのスカウティングを作り上げていくのです。それがスカウティングの基本精神である「自発活動」なのです。

スカウト、そして指導者のみなさん、このCOVID-19をスカウト活動の危機と捉えずに、本来のスカウト活動を行う、またとないチャンスが到来したと捉えてみませんか? そしてスカウトたちは、自らのスカウト活動計画を作りましょう。指導者のみなさんは、どうしたらスカウトが安全に、そして彼らにより良き支援ができるかを考えましょう。そして、このコロナ禍の中で、本来のスカウティングができるように、ひとつひとつ問題を解決していきましょう。



● with コロナで進むボーイスカウト



● ボーイスカウトのコロナ対策

スカウトも指導者も、以前のようなスカウト活動を望んでいることでしょう。ところが、現時点では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は第3波が到来して、11/11現在、茨城県で、Stage 4に限りなく近いStage 3となりました。

ボーイスカウト茨城連連盟では、2月末からのCOVID-19の感染拡大の混乱時期がやや収まった5月末に「新型コロナウイルス感染症による活動自粛からのスカウト活動再開の指針（Ver.4からは「with コロナにおけるスカウト活動ガイドライン」に名称を変更）」を発行し、活動再開に備えてきました。その中で、「ボーイスカウト活動実施の判断基準」を設け、その基準に従って、それぞれ感染対策を十分にとった上で、活動を実施する・・・としました。そのポイントは、「コロナ対策をしっかりやって、スカウティングの本質を忘れずに活動にしていこう！」です。そのガイドラインも11月にはVer.6.2となり

ました。表紙にもありますが、「スカウトという言葉には、自ら道を切り拓いていくパイオニアという意味があります。その原動力は自発活動です。私たちもスカウトとしての気概を持って、コロナ対策を十分したうえで、周囲に配慮をしながらスカウト活動を実施していきます。

このガイドラインでは、活動に当たっての条件や注意事項を細かく示していますが、それは「活動をやらない・やらせない」ためではなく「活動をできるようにするため」にどうするかという見地からのものです。

「指示されたからヤラナイ」「再開の指示があるまで待っている」ではなく「どうやったら活動ができるのか」「今は無理でも、活動ができるようになったときのために準備しておこう」というスカウティングの基本精神である「そなえよつねに」「自発活動」を期待しています。

また、活動するにあたっては、『私たちは「ちかい」をたてたスカウトですから、決められた（指示）ルールを必ず守ることを自らに課しましょう。』とのメッセージも伝えました。

「スカウトの真の資格は信用され得る人間のみにも与えられる。嘘をいわず、ごまかしをせず、信頼されて託された任務を正確に行なうことなどは、すべてスカウトの名誉を保つ基礎である」（中村 知：なかむらさとの1968年7-8月スカウティング巻頭言）よりという基本姿勢、更には、この運動のスローガンである「日日の善行（Good Turn Daily）」について『考え、実行していきましょう。「Turn」は恩返しです。それは、スカウトのちかい「からだを強くし心をすこやかに徳を養います」にも繋がっています「徳を養う」

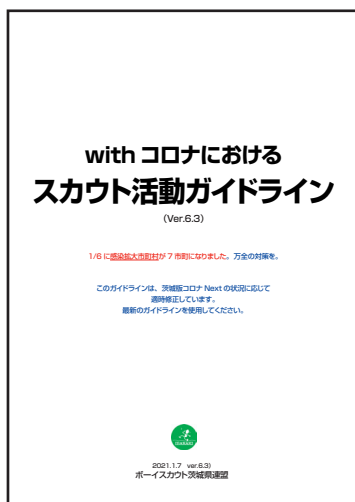
つまり、それは「すべてに感謝の恩返し」も心を身に付けるということなのです。それは、スカウティングをしっかりとやることで、社会に配慮しながらも、しっかりと役立つ「活動的で自立したスカウト」を育つよう、スカウトは自発的に取り組み、指導者はそれに向けて最大の支援をしていくことなのです。』とも伝えました。

● 安心・安全な活動のための指導者研修

本年度実施されるの指導者訓練は、8月までの自粛期間を終え、9月から「新型コロナウイルス感染症」への十分なる対応をすることを条件に開催が許可されました。

そのため、8月23日にコミッショナー、トレーニングチームが集結し、with コロナにおける指導者研修を実施するにあたって、あらゆる角度からの実証を行いました（写真上）。その結果を「with コロナにおける指導者研修の進め方」としてまとめ、関係者に周知しました。それにより、コミッショナーやトレーニングチーム員は、その必要性・重要性について改めてを理解され、その責任が両肩にズシンとのしかかったことでしょう。

今回の新型コロナウイルス感染症に対しては、十分すぎるほどの準備・対策をしても、し足りません。特に、スカウティングの教育面を預かるコミッショナー、教育を実施するトレーニングチームであれば、新型コロナ対策への十二分な知識と対処方法、特に研修現場での具体的な状況対応について、確実に理解し・把握しておくことは「DUTY（スカウトの務め）」以外の何ものでもありません。それは「ちかい」の実践そのものだからです。実践を問う立場にある者としては、自ら「範」を示さなくてはなりません。



● COVID-19 とボーイスカウト



● COVID-19 に対するボーイスカウトの取り組み

《2月20日》

政府から、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からイベント開催への協力が呼びかけられる。

《2月21日》

日本連盟から「新型コロナウイルス感染への対応について（緊急・第1報）」が发出され、日本連盟では自らの事業のみならず、各県連盟の諸事業、団・隊による活動についても、各主催側で政府方針に基づいた対応をすることとした。

《2月25日》

政府から基本方針が発表され、日本連盟から「新型コロナウイルス感染への対応について（第2報）」が发出された。県連盟では、県連、地区、団・隊で2週間以内に予定されている事業（会議、行事）を自粛することとし、中止または延期することとした。

《3月3日》

2月28日に政府は、全国全ての小・中学校等に対し、3月2日から春休みに入るまでの間、臨時休校を行うよう要請があり、

日本連盟から「新型コロナウイルス感染への対応について（第3報）」が发出された。

県連盟では、3月22日（日）までの活動の自粛（中止または延期）とし、自粛期間以降の活動について、県連盟だけでなく、団において予定している集会、行事などの確認と対応の徹底するよう指示した。

《3月9日》

県連盟では、学校に行けない、そして活動ができないスカウトに対して、「やってみよう」というタイトルの各自で行うプログラムの提供を県連ホームページでいち早く開始した。対象はビーバーから指導者までで、7月25日の終了までに全69プログラムの提供を行った。

《3月21日》

日本連盟から「新型コロナウイルス感染への対応について（第4報）」により、活動自粛期間が4月5日まで延長され、地域の感染状況により、感染への対策措置を講じての活動が一部実施可となった。

《3月26日》

日連の第4報を受けて、県連盟では、具体的な活動再開にあたっての注意を記した「活動自粛期間中の団・隊活動について」

を各団に送付した。

《4月3日》

日本連盟から「新型コロナウイルス感染への対応について（第5報）」により、活動自粛期間が5月6日まで延長された。

《4月13日》

茨城県から平日・休日を問わず、不要不急の外出自粛が求められ、県連事務局がテレワーク、指導者研修も自粛となった。（指導者研修は9月から再開）

《4月14日》

県連盟では、活動ができない団・隊・班・組に対して、「やってみよう2」という活動プログラムを県連ホームページで開始した。7月25日の終了までに全15プログラムを作成し提供した。

《5月6日》

全ての県連盟において、5月31日（日）まで全ての活動を自粛するよう、日本連盟からの通達があった。

《5月15日》

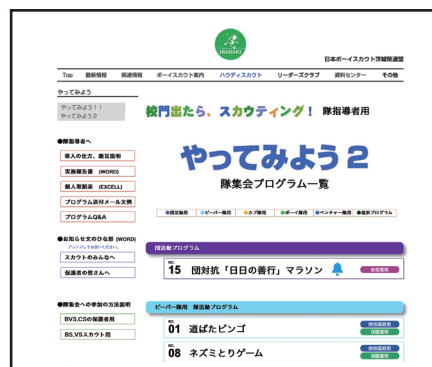
政府からの緊急事態宣言が（茨城は）解除された。

《6月4日》

日連から、活動自粛から「新しい日常にむけて（今後の取り組み）」が提示され、宿泊を伴わないスカウト活動が条件付きで再開となった。

《6月5日》

県連から、活動再開に向けた「茨城県連における新型コロナウイルス感染症による活動自粛からのスカウト活動再開のためのガイドライン」（5月から検討）を各団に送付し、新しい生活様式を取り入れた活動の方向性を示した。



ボーイスカウトでは、

1. 地域の感染拡大状況を注視し、スカウトたちの安全を第一に考えた活動を行う。
 2. 活動内容の変更や延期、中止を視野に入れ、地域社会における感染拡大のリスクを高めないように努める。
 3. 関係者全員（スカウト、指導者、ご家庭など）が、「新しい生活様式」の徹底に努める。
- の3つを基に、「創意工夫」と「そなえよつねに」でスカウト活動を推進しています。

※「そなえよつねに（備えよ常に）」はボーイスカウトのモットーです。

以下、

①スカウト活動のためのガイドラインは

6/6 Ver.2

7/4 Ver.3

7/10 Ver.4

8/1 Ver.5

② with コロナにおけるスカウト活動ガイド

ライン（①の名称変更）は

8/31 Ver.6

11/11 Ver.6.1

11/30 Ver.6.2

と版を重ねている。

《6月9日》

自粛となっている指導者訓練が9月1日から再開との通知が届く。それに向けて、オンラインでの研修や参加申込についての検討が開始された。

《7月10日》

宿泊を伴ったスカウト活動が条件付きで再開された。

《8月18日》

日本連盟から3つの指針「講義形式の指導者集合訓練の運営方針」「テント泊を伴う指導者集合訓練の運営方針」「宿舍泊を伴う指導者集合訓練の運営方針」が出された。

《8月23-24日》

3つの指針を受けて、指導者訓練再開に向けて、コミッショナー、トレーニングチーム等により、with コロナにおける指導者研修を実施するための実証を行った。その結果を「with コロナにおける指導者研修の進め方」としてまとめ、関係者に周知した。

《9月6日》

再開された指導者研修の第一弾として「第63回ボーイスカウト講習会」が土浦青少年の家で実施された。以後11月中旬まで順調に開催されたが、感染拡大の第三波により、11月下旬からの12月末まで、再び自粛となった。

《11月25日》

活動の可否判断は、団において地域の

感染拡大状況、保護者の意見、指導者の意見を十分に考慮し、団会議、団委員会で慎重に検討の上、活動についての判断となっているが、この指標を明示した。

・・・これが11月末までの取り組みです。

● スカウティングの意識改革

COVID-19により、社会生活そのものの在り方が大きく変わってしまいました。当然ボーイスカウトの活動も3つの密での活動が多いため、この短期間の大きな変化は、活動への戸惑いと不安を募らせました。

しかし、ボーイスカウト活動の基本方針は変わることはありません。スカウトは、自ら道を切り拓いていくパイオニアです。新型コロナ対策への十二分な知識と対処方法、特に活動現場での具体的な状況対応について、確実に理解し・把握し、実践していくことはわたしたちの「務め（DUTY）」以外の何物でもありません。その意志と自覚をもって、今まで以上に楽しく、実のある活動を行っていきます。

with コロナにおける 指導者研修の進め方

第2-2版（補充版）
2020.09.22

※表紙と裏紙、編集を1冊に、多少短縮や修正しました。
※表紙と裏紙の両方に印刷された場合、両面印刷されたものと見なされます。
※印刷された場合、印刷されたものと見なされます。
※印刷された場合、印刷されたものと見なされます。



ib - SCOUTING
for Training Team



01 スカウトの日

毎年9月の敬老の日（第三月曜日）を「スカウトの日」として、全国のスカウトや指導者が地域社会への奉仕活動をはじめとする様々なスカウト活動を全国の各地域において一斉に展開し、加盟員一人ひとりが地域社会に貢献することを目的に実施しています。加えて、スカウト運動が地域社会に根ざした実践活動であることを広く社会にアピールする機会として取り組んでいます。

この持続可能な社会を目指して、自分たちができることから取り組むことで、みんなで地球を大切にす取り組み「スカウトの日」の活動は、昭和49年のシニアスカウトフォーラムでの『より良い社会を目指して、スカウトは何をすべきか』の取り組みから始まりました。

スカウトの日は、地域清掃や植林活動、社会福祉施設の訪問など敬老の日にちなんだ活動、人権・平和・国際理解をテーマとした活動、地域のニーズによる地域の方々と共にいる身近な奉仕活動、また、持続可能な開発目標（SDGs）を達成するための活動などを、積極的に展開しています。

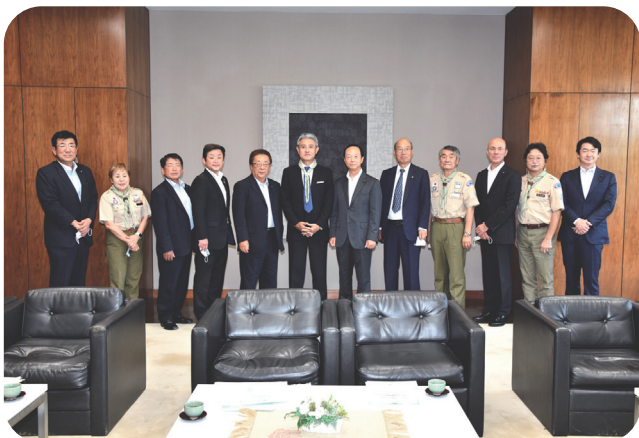
私たちが生活するこの地球には、動植物の大切な生命、貴重な自然や資源があふれています。しかし、人間が便利な生活を望むことで、これらの生命や自然や資源が私たちの地球から無くなるとうとしています。また、人間が住んでいる場所や国、人種や性別などによる違いがさまざまな差別を生み出しています。地球上に生きる全ての生物が平等に、そして平和に過

すことができる、そんな世界にしていけることが今の時代に生きる私たちに求められています。

そこで、今年は「SDGs 発見ノート」を活用して、地球や環境をテーマに活動しました。「難しいな」「簡単だな」「こんなこと当たり前だな」など、スカウトによって受け取り方はそれぞれだと思います。その中で、自分自身が地球のため、世界のため、日本のため、そして地域のために何ができるのかを考えて、取り組むきっかけとなりました。

茨城では、34の団で、1,015名のスカウト、指導者、そしてスカウトの家族や関係者が、スカウトの日に関する様々な活動に取り組みました。





02

ボーイスカウト振興茨城県議員連盟から助成金をいただきました。

「ボーイスカウト振興茨城県議員連盟」は、県議会議員で構成される超党派の議員連盟です。ボーイスカウトの活動にご理解をいただき、長年に亘り、茨城県連盟の活動へ数々のご支援をいただいております。

本年度も、県連盟、維持財団に助成金をいただきました。助成金はスカウトの地域貢献活動に役立たせていただいております。



03

第63回ボーイスカウト講習会

COVID-19により指導者研修は8月31日まで自粛となっていました。自粛が明けた最初の日曜日の9月6日に、第63回ボーイスカウト講習会が土浦市青少年の家で10名の参加で開催されました。

コロナ下での最初の指導者研修とあって、参加者も講師も緊張の中、感染防止に最大限の注意を払いながらも、楽しく、和やかに、新しい手法を取り入れながら研修を行い、無事に終了しました。

翌9月13日には第64回ボーイスカウト講習会が水戸・県青少年会館で21人が参加を得て開催されました。



04

野営法研究・基本「スカウト・キャンプ入門」

9月13日(日)、土浦市青少年の家で、県定型訓練・野営法研究会 基本「スカウトキャンプ入門」が開催されました。この研修は、ボーイスカウトにおけるキャンプに位置づけをきちんと理解することで、ボーイスカウトの教育法である「班制教育」や「進歩制度」、「自然の中で活動」とどのように繋がって、スカウトたちの成長を促していくのかを理解していくものです。実習としてテントやタープの張り方を根拠を確認しつつ学び、マッチ3本での火起こしにチャレンジするゲーム等を取り入れ、興味を刺激しながらの研修となりました。



05

GB (グリーンバー) のつどい

10月4日(日)、GB(グリーンバー:班長、次長)の意識の向上と仲間づくりのための「GBの集い」が、笠間市岩間体験学習館「分校」において、スカウト28名、スタッフ・指導者29名の参加により、実施されました。今までは1泊2日で実施していましたが、今回はコロナ対策で1日型の実施となりました。

今回上級班長を務めた田崎君は、以前GBのつどいに参加して他のスカウトに啓発され、活動に積極的になり、今回準章を取得したとのこと。これまでのGBのつどいの成果が実感できました。

06

ウッドバッジ研修所・スカウトコース

ウッドバッジ研修所は、ボーイスカウトの隊指導者になるための隊指導者訓練（基礎訓練課程）です。続くウッドバッジ実修所（上級訓練課程）を修了することで、隊長として隊を運営するための基本的事項を身に付けていきます。

ウッドバッジ研修所は、各部門（ビーバー、カブ、ボーイ、ベンチャー）共通の内容を学ぶ「スカウトコース」と、各部門の内容を専門的に学ぶ「課程別研修」があり、10月31日から11月3日までの3泊4日でスカウトコースが、また11月15日には課程別研修が、ともに土浦市の土浦青少年の家とそれに隣接する茨城県連盟の土浦キャンプ場において開設されました。

今回のスカウトコースは、新型コロナウイルス感染症への対応で、宿泊 TENT を1人で1張とすることにし、それに伴うキャンプサイトの広さの関係で、参加定員を設けての開催となりました。

10月31日、杉浦一弘（日本連盟リーダートレーナー）所長の下、ウッドバッジ研修所スカウトコース茨城第4期が始まりました。スタッフは事前に対コロナ研修をしてきており、いつも通りの対応でしたが、参加者は緊張とコロナへの不安、そして大勢のスタッフに囲まれて不安を隠しきれない様子でした。開所式、隊編成式、セッション1と続きオリエンテーションを迎えて、漸く笑顔がみられるようになりました。

参加者は、「活動的で自立したスカウトを育てる」ために、自らの余暇にその情熱を注ぎ、スカウトを社会のために送り出す最大の支援者です。ボーイスカウト運動を真剣に捉え、また、自らそこに楽しみを見出している方々でもあるわけです。

このスカウトコースは、100年続くこのスカウト運動をわかりやすく伝え、スカウト教育の原理に基づいた基本的な方法を、正しく知り、理解してもらうことを目的としています。知識や技能はもちろんですが、指導者としての意識・態度・心かけ、そして良き社会人の在り方のスカウティング精神の涵養も重要視しています。それには、スカウトコースを通してスタッフの本気の情熱に触れ、それを心に焼き付けてもらうことが大切であり、そして、その情熱をスカウト活動に注いでもらうという、スカウティングならではの育成手法で行われます。それが、この運動の「成人としての関わり方」そして「関わる成人としての在り方」への理解につながります。

こうして、4日間の全21の熱きセッションをみごとやり遂げた13人の参加者は、所長から履修証と、隊長からウッドバッジ研修所修了者の証であるウオグルを胸に誇り、スカウトの待つ原団へと帰って行きました。

コロナ禍での研修ということで、さまざまな対策・配慮と工夫、そして絶対に感染させないという気概の中、無事に終了することができました。



07 茨城県連盟は創立 70 周年を迎えます

70 周年のテーマは

Catch The Scouting Sprit 三指がつなく、ひとつの想い ～過去、今、そして未来へ～

みなさん、ボーイスカウト茨城県連盟は、今年 5 月 20 日に満 70 歳を迎えます。

正しくは、今から 98 年前の 1923 年（大正 12 年）2 月 28 日、三島通陽（みしまみちはる：第 4 代総長）が佐野珧治（さのこうじ：茨城の初代理事長）の要請に応じて茨城に講演にやってきたところから茨城のボーイスカウトの歴史が始まります。

大正時代から昭和初期にかけて、県内各地でボーイスカウト隊が結成され、昭和 6 年、佐野の下にそれらの団長が集まり、茨城県連盟が結成されました。しかし、第 2 次世界大戦のために消滅してしまいました。

戦後間もない昭和 22 年、佐野はボーイスカウトの復興、県連盟の再興のために立ち上がり、昭和 24 年、県内には 5 つのボーイスカウト隊が一斉に発隊しました。それを契機に、県内でも各地で隊が設立されました。

昭和 26 年 3 月には、水戸市役所において、県連盟理事会が開催され、佐野が理事長に、また、連盟長には、水戸徳川家の御子孫である徳川宗敬氏が就任されました。

そして 1951 年、昭和 26 年 5 月 20 日、茨城会館において、加盟隊 16 隊、スカウト 400 名で茨城県連盟が再び結成され、この日を新たな県連の創設日としました。そして、今年 5 月 20 日に満 70 年を迎えるのです。

茨城県連盟では、令和 3 年の 4 月から翌年 3 月までの 1 年間に、連盟創立 70 周年記念 YEAR として位置づけ、70 周年テーマ「Catch The Scouting Sprit（スカウト精神を掴み取れ!!）三指がつなく、ひとつの想い ～過去、今、そして未来へ～」の下に、1 年間をかけた記念プログラムを展開していきます。

70 周年記念 YEAR プログラムは、大きく 2 つから成ります。1 つは、全ての団が参加する「TSUNAGU(つなく) IB Project」です。これには、団の「昔」と「今」と「未来」をつなぐ『団紹介プログラム』、県内の各団のスカウトを歌でつなぐ『リレーソング・プロジェクト』、後輩たちに森をつなぐ『アケーラの森記念植樹』、スカウティングに関わる人をつなぐ『70 周年表彰』、スカウトと保護者をつなぐ『70 周年記念「IB グランプリ 2021」県大会』があります。

2 つめは、任意参加の「70 周年プロジェクト」です。これには、『70 周年の歌、茨城県連の歌を作るプロジェクト』『70 周年記念 B-P のココロに触れる旅プロジェクト』『野口宇宙飛行士と ZOOM でお話をするプロジェクト』（案）、『地域へのアピール、体験活動プロジェクト』『ボーイスカウトに入って良かった作文コンテスト』『ボーイスカウト活動紹介 PV の作成プロジェクト』『自発活動推進プログラム』等が予定されています。



そして、令和 3 年 8 月には、昨年コロナで延期となった第 20 回茨城県キャンボリーを、11 月には、土浦市霞ヶ浦総合体育館（水郷体育館）（予定）において、県連創立 70 周年記念式典を、県連の全加盟員を一堂に会して実施する予定です。また、これまでの茨城県連の 70 年を振り返った記念誌の編纂も行います。

70 周年テーマ「Catch The Scouting Sprit 三指がつなく、ひとつの想い ～過去、今、そして未来へ～」の「つなく」には「未来」「希望」「絆」「可能性」「持続 Sustainable」の意味が込められています。具体的には・・・

- 県内全てのスカウト・指導者の気持ちとココロを「今」つなぐ
- 先人達が紡いできた茨城のスカウティングの歴史と思いを受け取り、これからのスカウトや指導者たちにつなぐ
- 私たちを取り巻く地域社会と、スカウティングをつなぐ
- 日本中、世界中のスカウトと茨城のスカウトをつなぐ
- 進取の気性に富んだ茨城のスカウトのココロ・精神を継承し、次代につなぐ

という私たちが「今」行っていくミッションもまた示しているのです。皆さんと力を合わせて、素晴らしい 70 周年を作り上げて行きましょう。

● 70 周年記念 YEAR プログラム一覧

プロジェクト名称	対象	PJ 開始	PJ 終了	成果発表、実施等
団紹介プログラム	全団	4 月	8 月末	式典、記念誌
リレーソング・プロジェクト	全団	4 月	8 月末	式典、記念誌
70 周年アケーラの森記念植樹	全団	4 月	5 月 GW	団にて苗木用意、キャンプ場に植樹
70 周年表彰	全団、他	7 月	9 月末	式典
「70 周年の歌」「茨城県連の歌」	公募	1 月	7 月末	式典、記念誌
70 周年記念「B-P のココロに触れる」P	公募	4 月	終了時	コロナ収束後に実施
70 周年記念 IB グランプリ 2021	全団	4 月	9 月中旬	地区決勝 9 月中旬、県大会（式典）
野口宇宙飛行士と ZOOM でお話をする P	選抜	4 月	式典当日	式典会場にて
地域へのアピール、自然体験活動 P	任意	4 月	年度末	団・地区にて実施
ボーイスカウトに入って良かった作文コンテスト	公募	4 月	8 月末	式典、記念誌
ボーイスカウト活動紹介 PV の作成 P	公募	1 月	8 月末	式典、記念誌
自発活動推進プログラム	全団	4 月	年度末	団・地区にて実施

08 セーフ・フロム・ハームへの取り組み

2017年8月に開催された第41回世界スカウト会議において、「セーフ・フロム・ハーム世界方針」が採択されました。この方針では、各国スカウト連盟に対して、スカウトたちの安全を確保できる政策や施策を実行することを強く推奨し、「セーフ・フロム・ハーム」を展開する上で、以下の3つの側面での実行を必要としています。

- ①プログラムとしてスカウトに自信を持たせ、自尊心を大切にできるようにすること
- ②隊指導者や団委員、役員等の18歳以上の指導者（副長補・ローバースカウト等も含む）がこの分野の理解と実行ができるようにすること
- ③組織として、危機管理という側面から対応すること

「セーフ・フロム・ハーム」は、特別なことではありません。人権を尊重するということであり、人として守るべき社会ルールやマナーです。決して、日々の活動に制約を加えるものではありません。危険や危害となるものからの保護、抑止、あるいは防止につながるものです。しかしながら、危険や危害をなくすためには、一部の人だけが取り組むのではなく、この運動に関わるすべての人がこれを実行することが必要です。一人ひとりの行動はもちろん大切ですが、同時に組織としても取り組みが大切です。茨城県連盟では、加盟登録の年次登録審査の際には全員が、また、定期的にセーフ・フロム・ハーム・セミナーを実施し、意識の醸成を行っています。

●セーフ・フロム・ハームの言葉の意味
Safe:安全な 安心できる 危険のない 心配のない 大丈夫 信頼できる

Harm:（精神的・肉体的・物質的な）害 傷害 危害

Safe from Harm :害（傷害 危害）を受けることのない安全（安心）

●セーフ・フロム・ハームとは
 「セーフ・フロム・ハーム」とは「さまざまな危害から常に安全な状態にいる」ことです。最も安全で安心できる環境を提供することなのです。

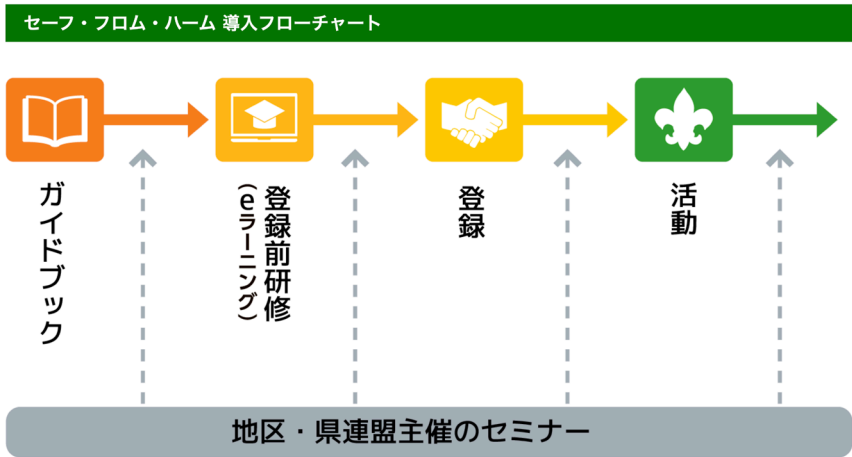
スカウト運動の教育においても、その安全な環境を高く維持することで、社会からの信頼を得て保護者の方々にも安心して子どもたちを託していただけます。

●セーフ・フロム・ハームのはじまり
 国連総会（1989年）で、「児童の権利に関する条約」が採択されたことが始まりになります。第32回世界スカウト会議（1990年）にて、「児童の権利に関する条約」が決議されています。第36回世界スカウト会議（2002年）で、よりよいスカウト教育の提供と危害のないスカウト活動を目指し、「Keeping Scouts Safe from Harm」を採択しました。

●登録前研修
 ボイスカウトであるためには、毎年加盟登録をしなければなりません。その際に、セーフ・フロム・ハームの基本的な考え方や対処方法を確認し意識を高める意味から、セーフ・フロム・ハーム登録前研修（eラーニング）に取り組み、セーフ・フロム・ハームについて理解し同意したら発行される修了証を提出しなければ加盟登録ができないことになっています。

このセーフ・フロム・ハーム登録前研修は、「思いやりの心を育む教育」を指導者が理解し、危害を予防するため、また、思いやりの心を育むための知識や方法を身につけ、スカウトたちに、そしてそれをとりまく環境を安心・安全に保つために行われます。

そして同時に、スカウトの指導にあたる全ての成人指導者（隊指導者や団委員、役員等の全指導者、ローバースカウト、加盟登録をする育成会員等）の「質」、スカウト運動の「質」の向上を図るものでもあります。



SCOUTING 茨城

SCOUTING 茨城 2021年 第1号 通算52号 令和3年1月発行
 発行 日本ボーイスカウト茨城県連盟
 〒310-0034 水戸市緑町1-1-18 茨城県立青少年会館3F

- ※ SCOUTING 茨城は、不定期で発行しています。
- ※ SCOUTING 茨城は、県連ホームページからもダウンロードできます。
<http://www.scout-ib.net/>
- ※ SCOUTING 茨城に掲載されている写真・文章等は著作権法等により保護されています。著作権者に無断の複写・転載は堅くお断りいたします。